

感染症の話題

感染症に関する話題をいくつかご紹介します。

[感染症の流行時期が変化してきている]

RS ウィルス感染症という呼吸器感染症があります。健康な成人にとっては、数多い風邪ウィルスの一つに過ぎないのですが、1歳以下の乳幼児で重症化しやすく、しばしば入院が、最近では珍しくなりましたが10年以上前までは時に人工呼吸が必要になる、脅威の（直言すれば命がけの）感染症でした。

この病気、かつては冬に流行する事が常識で、医学生のいろんな試験にも良くでてきていましたが、数年前から真夏にも流行するようになっていました。原因は気候変動ではないかと言われてはいますが、定説には至っていません。

今年は6月になってインフルエンザが流行している地域が佐世保市内にあり、感染症の流行時期の予測が難しくなっているのかもしれない。学校や幼稚園、保育園からの感染症流行の情報には注意しましょう。

[予防接種がようやく充実してきた]

最近、子どもの生命が犠牲になる悲惨な事故や事件の報道が相次ぎました。ただ、統計的に子どもの死が身近なものになっているかと言うとそうでもなく、厚労省の人口動態統計によると、我が国の乳児死亡率（出生千人に対して、1歳未満の乳児が亡くなっている数）は、1955年の39.8に対して2017年には1.9と実に37.9（千人当たり）も改善しています。事故や事件がそうそう多く発生している訳ではありませんから、これらの死因の多くは病気によるものですが、この60年間の病気による乳児死亡率低下の要因は、1位が水道の普及による衛生環境の改善、2位がワクチンによる感染症の予防だと言われています。この10年間で新たに定期接種に加えられたワクチンは、肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン、水痘ワクチン、B型肝炎ワクチンの4つで、いずれの感染症も子どもの生命を危険にさらすものばかりです。予防接種の計画はかかりつけの小児科医に直接相談されるのが一番ですが、相談の前に少し調べておかれる場合は、

日本小児科学会ホームページのトップに「一般の皆さまへ」と記されたバナー
がありますので、参考にされてください。

佐世保中央病院・小児科
山田克彦